

下関市立豊東小学校の児童がシイタケの種駒打ち作業を体験！

令和4年1月19日（水）、下関市立豊東小学校において、5年生41名がシイタケの種駒打ち作業を体験しました。

これは、次世代を担う子供たちに、ふるさとの森林の大切さやそれを支える林業の役割について、興味、関心をもってもらうために、「菊川町林業研究会」（会長：松田弾六）が行ったものです。

当日は、会長による森林の役割やシイタケ栽培の話の後、会員の指導により、クヌギの原木に電気ドリルを使って穴をあけ、木槌で種駒を打ち込み、校外に仮伏せを行いました。

児童たちは、ほとんどが初体験で、初めて使う道具に戸惑いながらも熱心に作業をしていました。

最後の「ふりかえり」では、「シイタケの作り方を学べて良かった」、「でてくるシイタケを食べたい」などの声が聞かれ、森の恵みを通じて、木や森林に興味を持ってくれたようでした。

菊川町林業研究会では、今後もこのような森林体験学習を継続し、子供たちの森林に対する意識を高めていくこととしています。



森林・林業の大切さを学ぶ



ドリルでの穴開け初体験